

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 1 月 21 日

【評価実施概要】

| | |
|-------|--------------------------------------|
| 事業所番号 | 3670101884 |
| 法人名 | 医療法人 清和会 |
| 事業所名 | グループホームかがやき2号館 |
| 所在地 | 徳島県徳島市八万町橋本80番地 (電話) 088-668-1071 |

| | |
|-------|------------------|
| 評価機関名 | 徳島県社会福祉協議会 |
| 所在地 | 徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地 |
| 訪問調査日 | 平成 21 年 1 月 21 日 |

【情報提供票より】(平成 20 年 12 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

| | |
|---|-----------------|
| 開設年月日 | 平成 17 年 5 月 3 日 |
| ユニット数 | 3 ユニット |
| 職員数 | 20 人 |
| 利用定員数計 | 27 人 |
| 常勤:19人、非常勤:1人、常勤換算:ユニット1 7人 ユニット2 6人 ユニット3 6.5人 | |

(2) 建物概要

| | | | |
|------|--------|-------|--------|
| 建物構造 | 鉄骨造り | | |
| | 4 階建ての | 1 階 ~ | 3 階 部分 |

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

| | | | |
|---------------------|----------|---------------|---------------------------------|
| 家賃(平均月額) | 29,000 円 | その他の経費(月額) | 水道・光熱費:9,000円、敷設料:3,000円、その他:実費 |
| 敷金 | 有(円) | 無 | |
| 保証金の有無 (入居一時金含む) | 有(円) | 有の場合 償却の有無 | 有/無 |
| 食材料費 | 朝食 | 380 円 | 昼食 500 円 |
| | 夕食 | 500 円 | おやつ 100 円 |
| | または1日当たり | | |

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 12 月 15 日現在)

| | | | | | |
|-------|---------|------|------|----|------|
| 利用者人数 | 26 名 | 男性 | 10 名 | 女性 | 16 名 |
| 要介護1 | 7 名 | 要介護2 | 13 名 | | |
| 要介護3 | 3 名 | 要介護4 | 1 名 | | |
| 要介護5 | 0 名 | 要支援2 | 2 名 | | |
| 年齢 | 平均 84 歳 | 最低 | 60 歳 | 最高 | 95 歳 |

(5) 協力医療機関

| | |
|---------|------|
| 協力医療機関名 | 協立病院 |
|---------|------|

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は母体病院の駐車場を隔てた場所に建てられた3階建ての建物で、医療との連携により、利用者・家族へ「安心」を提供している。また周辺には民家が建ち並び、小学校や幼稚園も近くにあり、子供達と交流する機会も多い。このような環境のもと「地域の住民としての交流を大切に、傾聴・共感・笑顔」をモットーとする職員の支援で、利用者にはできる範囲で自分の役割を果たしつつ、個別性が尊重された日常生活を楽しまれている。

【重点項目への取り組み状況】

| | |
|-------|--|
| 重点項目① | 前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) |
| | 前回評価での主な課題である「地域密着型サービスとしての理念」「理念の共有と日々の取り組み」「運営推進会議を活かした取り組み」の項目は改善されている。「鍵をかけるケアの実践」の項目は改善されていない。 |
| 重点項目② | 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) |
| | 評価の意義を理解し、各ユニットのリーダーが中心になり全職員の意見を集約して作成している。 |
| 重点項目③ | 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) |
| | 運営推進会議は2か月に1回開催されている。参加者は利用者・家族・地域包括支援センター職員・民生委員・施設責任者・管理者・職員であり、活動状況・外部評価結果・災害対策等を議題として意見交換し、改善に向けて取り組んでいる。 |
| 重点項目④ | 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) |
| | 外部への相談窓口については、重要事項説明書に明記し家族に説明している。事業所内では年3回程度開催される家族会や面会時を利用し、個々の希望を聞き出す努力をしている。出された意見や要望等は速やかに話し合い記録に残し、職員間で共有し運営に反映している。 |
| 重点項目⑤ | 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) |
| | 地元文化祭への参加や婦人会などのボランティア受け入れ、また小学校や幼稚園の行事への参加や体験学習の受け入れなど地域との相互交流を図っている。また量販店での買い物や散歩途中での会話、花や野菜の差し入れを受けるなど、近隣の人々と日常的な交流をしている。 |

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1. 理念と共有 | | | | | |
| 1 | 1 | ○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている | 平成18年度に見直しを行い地域密着型サービスとしての理念をつくっている。 | | |
| 2 | 2 | ○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる | 見直した理念を玄関や各ユニットの事務室、リビングに掲げて毎日確認し合い、日々の実践に取り組んでいる。 | | |
| 2. 地域との支えあい | | | | | |
| 3 | 5 | ○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている | 地元文化祭への参加や婦人会などのボランティア受け入れ、また小学校や幼稚園の行事への参加や体験学習の受け入れなど地域との相互交流を図っている。また量販店での買い物や散歩途中での会話、花や野菜の差し入れを受けるなど、近隣の人々と日常的な交流をしている。 | | |
| 3. 理念を実践するための制度の理解と活用 | | | | | |
| 4 | 7 | ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる | 評価の意義を理解し、各ユニットのリーダーが中心になり全職員の意見を集約して作成している。外部評価結果については運営推進会議で報告し、意見交換して改善に取り組んでいる。 | | |
| 5 | 8 | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | 運営推進会議は2か月に1回開催されている。参加者は利用者・家族・地域包括支援センター職員・民生委員・施設責任者・管理者・職員であり、活動状況・外部評価結果・災害対策等を議題として意見交換し、改善に向けて取り組んでいる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|-----------------|----|--|---|------|-----------------------------------|
| 6 | 9 | ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる | 市町村とは定期的な書類の提出や介護認定申請代行時以外に、入居者の諸制度の活用についての相談をしたり空き情報の問い合わせを受けるなど、双方向的に連携する機会をつくり連携している。 | | |
| 4. 理念を実践するための体制 | | | | | |
| 7 | 14 | ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている | 面会時や状態変化時には、その都度の報告を行っている。また全ての家族に月に1度、お便りに添えて利用者の状態と金銭出納について報告している。金銭出納についての確認印は面会時にもらうようにしている。 | | |
| 8 | 15 | ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 外部への相談窓口については、重要事項説明書に明記し家族に説明している。事業所内では年3回程度開催される家族会や面会時を利用し、個々の希望を聞き出す努力をしている。出された意見や要望等は速やかに話し合い記録に残し、職員間で共有し運営に反映している。 | | |
| 9 | 18 | ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている | 職員の異動はユニット間にとどめ、馴染みの関係を大切にしている。やむを得ず異動する場合は引き継ぎ期間を十分にとり、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。 | | |
| 5. 人材の育成と支援 | | | | | |
| 10 | 19 | ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 年に1人は実践者研修を受けられるように計画的に調整している。また定期的に行われる法人内研修や月に1回程度の事業所内研修への参加を促し、全職員への伝達システムも整備している。 | | |
| 11 | 20 | ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 法人内の他事業所が加入しているグループホーム協会徳島県支部の情報を得たり、研修に参加するなどしている。研修参加時には情報交換するとともに、その後の実習や見学に繋げ、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|--|--|------|-----------------------------------|
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応 | | | | | |
| 12 | 26 | ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している | 事前に本人や家族と面談を行い、心身状態や本人の思いを把握しながら理解に努めている。また利用者等の思いを尊重しながら短期利用型共同生活介護の利用や、家族に面会を多くしてもらったり、外泊(帰宅)を繰り返すなど納得のいく方法で馴染めるよう支援している。 | | |
| 2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援 | | | | | |
| 13 | 27 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている | 研ぎ師の経験者に刃物類を研んでもらったり、書道が上手な方に行事予定を書いてもらうなど、特技を活かした支援を行っている。また新聞の切り抜きが日課になっている個人購読の利用者には配達されたらすぐに夜勤者が届けに行ったり、相撲好きの方と一緒にテレビを見ながら応援する際に本人から学など、共に過ごし支え合う関係を築いている。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 1. 一人ひとりの把握 | | | | | |
| 14 | 33 | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 家族から情報を得たり、入浴時や掃除や洗濯物たたみ等と一緒にしながら利用者との何気ない会話の中から、思いを把握するよう努めている。 | | |
| 2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し | | | | | |
| 15 | 36 | ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している | 本人や家族の意見を聞いたり、毎朝のミーティングでの情報交換や担当職員のアセスメントを基にした定期的なカンファレンスで検討し、理解しやすい表現を用いた介護計画を作成している。 | | |
| 16 | 37 | ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している | 介護計画の見直しは計画に応じて定期的に、また状態変化時にはその都度行い、家族の同意を得ている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|------------------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| 3. 多機能性を活かした柔軟な支援 | | | | | |
| 17 | 39 | ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている | 医療連携体制があり、医療的処置が必要な方や体調変化時の対応がスムーズに行われ、利用者・家族の安心が得られている。また、利用開始時に短期利用型共同生活介護の利用や家族の宿泊も可能で、利用者の状態に合わせた柔軟な支援が行われている。 | | |
| 4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働 | | | | | |
| 18 | 43 | ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 協力病院だけでなく、本人・家族の希望するかかりつけ医への受診介助も適宜行われている。 | | |
| 19 | 47 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している | 事業所の方針については指針を作成し、関係者間で共有出来ている。利用者一人ひとりについて、利用開始時から関係者間で話し合う機会を持ち、方針の共有が出来ている。 | | |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 1. その人らしい暮らしの支援 | | | | | |
| (1)一人ひとりの尊重 | | | | | |
| 20 | 50 | ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない | 書類は厳重に保管し、お便り等への写真の掲示は個別に同意書をもらう等の配慮をしている。また、食事制限者のおやつや排泄誘導等の対応についても誇りやプライバシーに配慮している。 | | |
| 21 | 52 | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 毎日ユニット毎にレクリエーションが計画され、利用者はその中から選択して他ユニットへの移動・参加が可能になっている。レクリエーションへの参加は自由であり、その時間に散歩に出かける方もいる。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|--------------------------------------|----|---|--|------|---|
| (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援 | | | | | |
| 22 | 54 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 利用者は簡単な調理の下ごしらえや食卓拭き・箸並べ等できることを手伝い、職員と同じテーブルで食事をしている。利用者の状態や好みに合わせて別献立にしたり、形態を変えたり、盛りつけを考えるなど食事が楽しめるよう工夫されている。 | | |
| 23 | 57 | ○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している | 日中は毎日入浴出来る体制があり、一人ひとりの希望時間にあわせて対応している。介助者についても利用者の希望にそい、入浴を楽しめるよう支援している。 | | |
| (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援 | | | | | |
| 24 | 59 | ○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている | 自室の掃除やゴミだし、調理の下ごしらえ等、一人ひとりが出来る役割を実践することで、生き甲斐につながっている。また月間行事については、お茶を飲みながら全員で意見や希望を出し合い、より楽しみになるよう努力している。 | | |
| 25 | 61 | ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している | 遠足・初詣・花見、大型ショッピングセンターへの買い物等外出の機会を多く取り入れている。毎日出かけた人にはその都度付き添い、外出嫌いな人には地域行事への参加や外食を計画して戸外に出かけられるよう働きかけをしている。 | | |
| (4) 安心と安全を支える支援 | | | | | |
| 26 | 66 | ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる | 2階は鍵をかけない時間帯を設けている。しかし、1・3階のユニットは行動障害が顕著な方の安全を配慮し、またホーム周辺の住宅街での居場所の発見が困難なため施錠している。 | ○ | 関係者間でさらなる検討を重ね、日中は、鍵をかけないケアができるような取り組みが期待される。 |
| 27 | 71 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている | 職員・利用者による避難訓練は、消防署員立ち会いのもと、年に2回実施している。運営推進会議等を通じて、消防署員・民生委員等地域の協力が得られるよう働きかけている。 | | |

| 外部 | 自己 | 項目 | 取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容) | (○印) | 取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む) |
|---------------------------|----|---|--|------|-----------------------------------|
| (5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援 | | | | | |
| 28 | 77 | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 献立は法人の管理栄養士がつくり、職員は食事・水分摂取量を記録し把握しており、個々に応じた支援ができるよう配慮している。水分管理の必要な方には、個別に量的管理を行っている。 | | |
| 2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり | | | | | |
| (1)居心地のよい環境づくり | | | | | |
| 29 | 81 | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 階段の踊り場には観葉植物や季節の鉢植えが置かれている。廊下や食堂兼リビングには貼り絵の大作や書道の作品が飾られ、明るい雰囲気になっている。テレビを見たり会話を楽しんだりして自由に過ごせるよう、柔らかい座り心地のよいソファも置かれている。 | | |
| 30 | 83 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 居室はベッドとタンスが備え付けられているが、その他机や椅子等好みの家具を持ち込み、自由に居心地よく過ごせるよう工夫されている。居室入り口の名札や飾り付け、暖簾などは思い思いの工夫がされ、同じ造りの部屋が個性豊かに創造されている。 | | |